



地域移行通信

第44号 令和元年6月発行



世田谷区 自立支援協議会 地域移行部会

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。

<世田谷区自立支援協議会 地域移行部会>

精神科病院の入院患者等の退院促進に向け、関係機関の情報交換や課題への対応策等の検討を行っています。

<世田谷区の状況>

世田谷区民の一年以上の長期入院者数の数は、平成29年6月30日現在、600人を超える状況です。

世田谷区では、平成30～32年度の地域移行に伴う基盤整備量は、139人（65歳以下59人、65歳以上80人）と示されています。

そのうちのおおよそ85%の方は、世田谷区外の医療機関に入院されている状況にあります。

<地域移行部会が考える課題認識>

それぞれの区民の入院状況や、退院についてどのような思いをお持ちなのかなど、詳しい状況はわからないまま地域移行を推進していかなければならないという課題認識に立っています。

世田谷区自立支援協議会 地域移行部会の 活動計画(アクションプラン)をご紹介します。



①『誰でも』地域移行部会の開催（年2回程度）

いろいろな方々に、地域移行に関わってもらえるような試みを。まずは、いろいろな方々にお声をかけ、地域移行部会に参加していただいて、一緒に考えていく。

②区内病院での地域移行部会の開催（年1回程度）

・身近な医療機関との連携の強化のため、普段なかなか地域の会議に参加できない医師、看護師、作業療法士等より多くの病院のスタッフの方々と、一緒に地域移行について考えていく機会としたい。

③地域移行部会として、世田谷区から距離のある病院へ出向く。（年1回程度）

・遠方で、世田谷区民の方が入院されている病院へ出向いての地域移行部会。
見学や出来るだけ多くの病院スタッフと話し合い地域移行について考えていく機会としたい。

④ニード調査を実施していきたい。

・病院へ出向いての面談方式やアンケート方式、また協力できる病院から少しずつやっていくか、全量調査かなど、方法などについても今後検討が必要。

⑤アパートが借りやすくなるためのマニュアル作り。

⑥地域移行支援の事例集の作成

・人材育成のために、これまでの地域移行支援やその思いなどまとめておく。



2018年度の活動状況を報告します

『誰でも』地域移行部会



日 時：①平成30年6月20日（水）午後、②平成31年3月3日（水）午後
 場 所：三茶しゃれな一どホール
 参加人数：①62名、②45名（高齢・障害福祉支援者、行政、病院関係、不動産関係等）

第1回は、「地域で支えよう退院後のすまい ～アパート探し編～」をテーマにして、世田谷区の居住支援制度について、世田谷区都市整備政策部住宅課からの制度説明や、精神障害者の退院後のアパート探しの実情について不動産屋にインタビューを行った結果について 話題提供した後、地域移行後に安心して暮らしていくために、皆で出来ることを話し合いました。

この会では、地域でご活躍の訪問看護ステーションの皆さんや、不動産関係者の方にもご参加いただいたことで、話し合った内容がより具体的になりました。引き続き、いろいろな立場の方に参加いただけるよう引き続き取り組んでいく予定です。

第2回は、「地域移行だヨ！全員集合」。このテーマは、地域で支える支援者が病院や地域で支援している担当者や、地域の支援者の方、また、今回は参加がありませんでしたが、精神のご病気を持つ当事者の方が皆で自分のこととして、地域移行を考えて行こうという思いがこもっています。

参加した皆さんが顔の見える関係で、一緒に活動していくこともとても大切です。

地域移行部会として、世田谷区から距離のある病院へ出向く。



「第1回 出前地域移行部会 桜ヶ丘記念病院編」

日 時：平成30年11月21日（水）午後
 場 所：社会福祉法人 桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院
 参加人数：37名（高齢・障害福祉支援者、行政、病院関係、不動産関係等）
 ＋桜ヶ丘記念病院医師、看護師、MSW等

はじめて世田谷区を飛び出して『地域移行部会として、世田谷区から距離のある病院へ出向く。』を桜ヶ丘記念病院で実施しました。

回復して、地域で暮らす当事者に登壇いただき、地域の支援者とともに、体験談をお話いただきました。

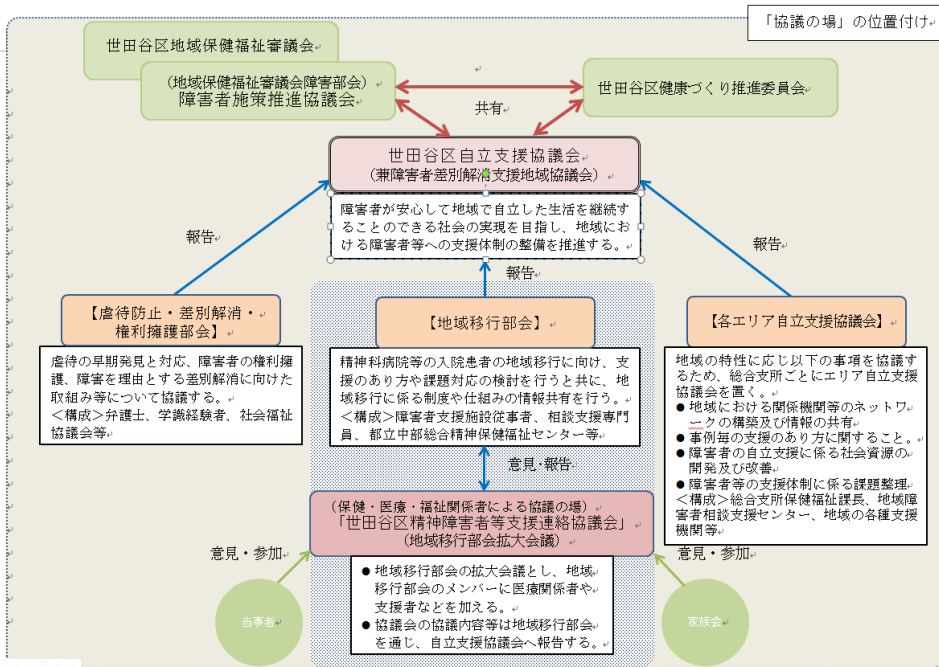
話題提供をふまえ、本人の強みや心配なこと、自分が担当だったら何ができるかを、病院スタッフ、地域支援者それぞれの立場で同じ席について意見交換を行いました。

病院の現場スタッフの皆様からは、長期入院患者の現状や課題についてお教えいただき、私たちからは、地域の医療・福祉・保健サービスの状況やネットワークの情報等をお伝えし、意見交換を通して、退院困難とされていた入院患者の退院後の地域生活のイメージを共有することができました。



世田谷区精神障害者等支援連絡協議会の開催

国の「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業」を進める上で、必須事業となっている「保健・医療・福祉関係者による協議の場」について、地域移行部会に、医療関係者や地域生活を支える支援者などを加えた「世田谷区精神障害者等支援連絡協議会」が設置・開催されました。



2018年度実施結果から見たこと

- 遠方の病院からの地域移行は、支援者にとって労力や経費などの負担のかかる支援となるため、なかなか支援を引き受けることができない、継続できないという課題もあります。部会を病院で行うことで、この課題に対する改善策を考える機会とすることができました。
- 当部会では『誰でも』地域移行部会とうたっているが、さまざまな活動を行っている地域の支援者が遠方の病院に出向き、地域移行について考えていくことで、多くの地域支援者が地域移行についての理解や意欲を高めていく機会とすることができました。

今後の課題



○指定一般相談支援事業所の数が少ない

600名を超える区民の長期入院への支援に対して、地域移行に取り組む区内指定一般相談支援事業所の数が少ない（8事業所）うえに支援を実施する事業所の数としての稼働率も極めて低い。H30年度の地域移行支援の実施事業所は3箇所。長期入院者の多くは区外精神科病院にいるため、支援にあたって、時間・交通費等の経費がかかるため、たとえ課題認識があったとしても1~2名で運営している相談支援事業所は支援を実施することがなかなかできていない。（事業所の継続運営や恒常的な人員不足が課題）

○保健・医療・福祉のそれぞれの支援者側が情報共有するための仕組みづくりが必要

地域移行の促進のためには、当事者への動機付け支援は不可欠であるが、支援者側も、地域の支援をもっと具体的に説明できるように、情報共有するための仕組みが必要である。

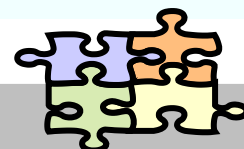
○官民合わせた多職種チームが効果的に関わる仕組みづくりが必要

支援関係者間で顔の見える関係を作りつつ、官民合わせて、多職種のチームが効果的に関わるための仕組みを検討していく。

○入院中の区民や医療機関の地域移行支援のニーズに関する実態把握を行うことが必要

600人のうち、例えば本当は病状が落ち着いたので世田谷区に戻りたいのだがきっかけが無くて戻れないから入院継続で我慢している、あるいは病院としては住まいの確保等の退院支援や退院後の支援があれば退院させられると判断しているがその支援が地域側から提示されないまま入院が継続している（世田谷区の医療保健福祉の情報が医療機関に届いていない）、といった入院中の区民や医療機関の地域移行支援のニーズに関する実態把握を行う必要が有る。

おわりに



地域移行部会の目的の一つは、精神科病院を退院して、世田谷区で自分らしく生活できるように、何が出来るか？どうして行ったらよいか？を自分のこととして考え、自分の言葉で話して、知恵を出し合うことです。

引き続き、精神科病院に入院している方への退院促進に向けた支援のあり方や課題を検討します。今後も、皆様のご参加をお待ちしております。

取り上げたいテーマや事例などありましたら、下記までご連絡ください。

【事務局】

世田谷区障害福祉部障害保健福祉課
世田谷保健所健康推進課

電話 03(5432)2247
Fax 03(5432)3021